

雪の降る景色に感動



今年も元気いっぱいの沖縄県嘉手納町の児童16人（小学5年生）が、1月30日から2月2日まで本町にやってきました。一番期待していたのは、雪が降るところを見ること。雪が手のひらに初めて舞い落ちる様に歓声が上がりました。



体験交流で、初めてのスキーがみるみる上達した嘉手納町児童。またスキーがしたい！



沖縄伝統舞踊の「エイサー」を披露



大山西小オリジナルの「大山^{からす}烏天狗伝説ダンス」

きっかけは国体ソフトボール

19回目となる大山町・嘉手納町人材育成交流事業は、合併前の大山町と嘉手納町がともに国体のソフトボール会場になったことが縁で、昭和63年から毎年交互に訪問している歴史のある交流事業です。

嘉手納町の児童16人は、町内小学5年生の家庭にホームステイしながら、3泊4日の日程で、スキー体験や学校訪問を通して交流を深めました。

児童が立ち寄る先では、「以前、我が家にも泊まってもらったんだよ。子どもも嘉手納町で泊めてもらったし・・・」と喋って、親しく声がかけられました。

初めての雪・初めてのスキー

スキー体験交流では、初めてにもかかわらず、大山町の児童や保護者に習いながらみるみる上達。「とてもおもしろくて、一日が早かった。またスキーがしたい！」と笑顔で感想を話していました。また、バスから見る景色の変化、冬の日本海と沖縄の海の色の違いなど、自然

のすばらしさを目の当たりにしました。

もう一度見たい天狗ダンス

翌日は大山西小学校を訪問。レクリエーション交流を楽しんだ後、大山西小5年生児童が「大山烏天狗伝説ダンス」を、嘉手納町児童が沖縄伝統舞踊の「エイサー」を披露しました。

「大山烏天狗伝説ダンス」は4年前から同校で創作されたオリジナルダンスとして継承されているものです。嘉手納町児童は「衣装についての鈴が鳴って、動きに迫力があつた。お面がかっこいい。みんなそろってスピード感があり、上手だった。もう一度見たい」と好評でした。

小学校訪問後、ステップ電気中山工場を見学し、なかやま温泉に入浴しました。

最終日は、前日の夜から雪が降り積もり町全体が雪景色となりました。嘉手納町児童には、それも思い出のひとつ。仲良くなった大山町児童たちと、今年の夏の再会を誓い合い元気に帰路に着きました。